



いま、保育センターでは

人々に作るよろこびを

「トントン、トントン」規則正しく、リズムカルな音が聞こえてきます。時々、笑い声や話し声も聞こえてきます。「希望の家」の静かなひととき。午後の保育の子どもたちのまだ来ない時間です。

「希望の家」には、はた織のための部屋が大小3つあります。織機は全部で12台。4台は木工室の木工さんたちが作った長さ4メートルもある伝統的織機です。他はテデゾム(Terre des Hommes)というドイツのボランティア団体から譲り受けたものです。これらの織機からクロマー(ショールにしたり物を包んだりする便利な布)やサロン(カンボジア式のスカート)を織っています。1枚のクロマー(180cm×90cm)は約3~4日で織り上がります。絹は糸も細いのでより日数がかかります。「希望の家」では現在12名のお母さんたちがはた織の仕事をしています。10月から12名の生徒が仲間入りし、今は、糸をまきとることを学んでおり、細い舟型の杆(ク)を右に左に走らせて織り上げてゆくまでには、根気のいる過程を通らねばなりません。

織糸は、アランヤプラテート(CYRの宿舎のある町)でも買えますが、割高のため、バンコクや東北タイにある絹織物で有名なスーリンで買

ています。今年の5月から現地スタッフに加わったブラティンの指導のもとに、染色もキャンプの中で化学染料を使って試みました。従来、カンボジアの人たちは、化学染料よりも天然染料を使うということですが、アランヤプラテートでは手に入らず、染色用の水も、水不足のキャンプでは無理があるので、バンコクに近いアントンという町の染色工場に依頼しました。

さて、織機の数やその種類(絹織用、もめん織用、それに改良織機)、さらに織り方指導の設備をもつなど、CYRの母親教育の側面を支える織物プロジェクトは、カオイダンでも規模が一番大きく、織り上がる布地もさまざまです。他団体との関係も密で、昨年三月、ドイツ医療チームが始めたハンセン氏病患者のためのプロジェクトにも織機を二台寄付し、織糸の共同購入など、積極的に協力しています。

カオイダンでの織製品は、主にキャンプ内で販売されます。キャンプでは救援物資が無償で手に入ることから、配給品や労働に対する価値感が薄れ、あてのないキャンプ生活が長びくにつれて、人々のモラルも低下しがちです。第三国定住者の名が発表され、人々がキャンプから出てゆくたびに、キャンプにはあきらめとも無力感ともつかない重苦しい雰囲気がいづまでも漂います。そんな中で、無言で糸の動きを追い、着実に布地を織り上げてゆく母親たちの凛とした姿にこそ、生きがいの尊さを教えられます。



「希望の家」でクロマーを織るお母さん

望まれる若い力

2年前のクリスマスの朝、私はタイに向って出ました。注射の針をつめたボール箱もバンコクの税関を無事に通過できました。数日後、上智大学のピタリ神父にお伴して、初めて難民キャンプに行き、カオイダンとサケオを駆け足でまわりました。一度バンコクに帰ってから、もう一度直出してサケオへ行き、一週間ほど子どものコーナーで大工仕事のまねをしていました。そのころ、いいぎりさんと山極さんにも再会しました。二人は大きな袋の中から、いろいろなものを取り出して子どもたちの目に笑いと、喜びを自覚めさせていました。そのとき彼女たちの頭の中には、これでこのまま帰ってしまうのではなく、この子どもたちのために腰をすえて働くという長期計画が練り上げられていたようです。

東京に帰ってしばらくしてCYRの発足と、そのあとで特に財務関係の理事になってくれという要請があって、いいぎり代表を支援するというごことでお引受けしたのですが、その後の支援の内容は誠にお恥かしい次第です。

でもそんなことにおかまいなく、CYRの活動はどんどん伸びていきました。若いボランティアの力と心がエネルギーとなって、今日では、タイにある難民キャンプでその果たしてきた活動を評価しない人はいません。CYRニュース第4号をみて、拡大された活動の状況を読むと、たった2年前のキャンプが夢のようです。現地活動も国内活動も着実に根をおろしたようです。特にカンボジア人自身の手によって現地活動が進められていることは、CYRの目標の結実として卒直に高く評価して良いことだと思います。

思えば、いいぎりさんという1人の有能な教育者を中核として多くの人たちの夢や善意が突つたと云うことができます。核がなければ多くの力が具体的に結集できないし、また反対に多くの力が支えなければ核は死んでしまうでしょう。この大切な運動の論理は真実でした。今後のCYRについても、それがどのような形をとるにせよ、新しい核の存在が最も重要な課題となることでしょう。

私なぞは正直に話せば、3ヶ月にもわたってキャンプで働き続ける若いボランティアの気力には驚きしかありません。今ここでこれらの人たちに感嘆の言葉を捧げることはやめますが、さらに今後数年間でもCYRの活動を続けてゆくためには、その中から新しい核となってゆく人材を折求することが、必須条件としてみえてきたわけです。

それがどんな課題として、どんな責任と重荷を担うことになるかは、ほんやりとしか見透すことができません。CYRニュースを手にかされるみなさまとともに、私も支援する人間の1人として、新しい核の出現を心から祈っています。

(理事 深水正勝)

キャンプから

タイにあるカンボジア難民キャンプは、カブチューン、カオイダン、カンブット、バンケン、マイルート、ルンブック、バナニコムの7ヶ所です。このうちカブチューン、マイルートの両キャンプは1981年末までに閉鎖される方針が出されています。またバンケン、カンブットの二つのキャンプも1982年度中には、閉鎖されるみこみで、最終的には、カオイダン1ヶ所が、カンボジア難民キャンプとして残されるとも言われています。

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、今年4月から離散している家族や親せきが、同じキャンプで暮らせるよう家族の“呼びよせ”を行ってきました。9月末から10月初めまでの1週間の統計では、約2500人の人たちが、家族と生活できるようになったことを示しています。

タイにあるラオス、ベトナム難民キャンプについても、その数を減らす作業が進められています。しかし、タイでは、現在、約20万人のインドシナ難民が一時収容所での生活を送っています。またカンボジア国境線上には、約30万人前後のカンボジア難民が集まっています。これらの人々は、最終的には、自主的に本国へ帰ることが望まれています。難民の人たちが、本国やアジアの国々で自立して生活をしていくためには、食糧、衣類、医療などの援助に加え、教育や技術を身につけるための援助を、これからも続けていく必要があります。

カンボジア難民キャンプの人口

カブチューン	5,936人
カオイダン	4,231人
カンブット	1,523人
バンケン(サケオ)	2,520人
マイルート	4,849人
ルンブック	2,410人

1981年10月31日現在UNHCR調べ

CYRの動き

- タイ
- 10/14 カオイダンキャンプで地域と小学校との
かかわりについて話し合いをもつ。
- 28 「希望の家」の子ども数の増加にともな
い倉庫を保育室に改造する。
(11/13 現在498名)
- 31 第2期手芸教室の29名が4ヶ月の講習を
修了する。
- 11/2 第3期手芸教室が15名の生徒を迎えて始
まる。
- 3 「希望の家」の保育者4名が子どもの健
康管理について学ぶため学校保健の講習
を受け始める。
- 11/30 現在現地活動員 5名

ひろば

CYR発足以来、難民の子どもたちのために
何かしたいという声をたくさんお寄せいただい
ています。「ひろば」では、会員が活動にどのよ
うに参加しているかを紹介しながら、私たちに何
ができるかをともに考える場を作ってゆきたいと思
います。

—おたよりから—

アルバムは夏休み直前に届きましたので、大急
ぎで子どもたちに見てもらいました。写真を見て、
「こんな所にもピアノがある。なまいきだ〜」
と言った女の子。私は、「このピアノはカンボ
ジアのお友だちにとっては宝物よ、みんなは一人
一台ずつ持っているでしょ、だけどここのお友だ
ちには何百人に一台しかないの。だからすぐこわ
れてしまうよ。」と話しました。私の話をきい
ている一年ぼうずたちは唇さも忘れて真剣になっ
てゆきました。ある子はノートや鉛筆を送ろうと
提案し、ある子はお金がいいと言い、また僕の靴
を送りたいと申し出てくれました。自分が持って
いる物の一部を送りたいという子どもたちの心は
貴重だと思いました。でもそれは、現地ボラン
ティアの負担になることを知り、ボランティアの方
が今一番必要としているものを援助することが私
たちの役目とこころえ、募金を行いました。<中略>

中央から遠くはなれた当地では、いわゆる草の
根的視点から世界を見、活動に参加することは、
よほど意識していなければ難しいと思われ
ました。しかし、小さいながらも世界中の子
どもたち、カンボジアの子どもたちにはんとうの幸せの
日が戻る時まで微力ながらがんばりたいと思いま
す。 北海道 西川啓子

- 日本
- 10/18 第4回バザーが盛大におこなわれ、
890,911円の売り上げを得る。
- 20 横浜双葉小学校バザーで写真を展示する。
- 26 横浜市のさゆり幼稚園にて写真を展示。
- 11/3 梅田こどもの家のバザーに参加し、「希
望の家」で作られた手芸品を展示する。
- 7 大阪被昇天学園バザーで写真を展示する。
- 13 「保育の手引き」2,000部が完成する。
- 14 第5回理事会
第26回インドシナ難民救援連絡会会議で
当会の最近の活動を報告する。
ILBA(在日外国人ボランティアグル
ープ)主催のバザーに参加する。
- 12/6 会員相互の親睦をかねて在日カンボジ
ア人を招き、当会事務所で「クリスマスの
つどい」をおこなう。
- 12/10 横浜YMCA、藤沢YMCAでお母さん
高校生などを対象に、難民キャンプの現
況・難民の人々、私たちのあり方につ
いて講演する。
- 12/20 京都ドイツ文化センターでバザーを開く。

カンボジアの人たちを困んで

12月6日、日本にいるカンボジアの人たちを招
いて、会員の親睦をかねてクリスマスのつどいが
開かれました。カオイダンキャンプの希望の家で
働いていたソフエンさんと家族のみなさん、クメ
ール語講座の先生をしていたサムフイさん、横浜
の病院に勤めているガオさんなど12人のカンボジ
アの人たちと40人ほどの会員が参加しました。ふ
だん事務所に来られない会員の会とのかわり方
や当会の活動のあり方、またカンボジアの人たち
の悩み、ことば、就職の問題、文化、習慣のちが
いなど、楽しい雰囲気の中にも、真剣な話し合い
の場となりました。

ボランティアの方々の日頃、事務所に集まって
準備したクリスマスカードや飾り、クッキーなど
もとぶように売れてしまい、当日6万円余りの活
動資金も得ることができました。なお当日のお楽
しみ福引会の当選番号は下記の通りです。該当す
る方は「つどい」のちらしの番号をきりとりて事
務所までお送りください。賞品のひきかえは1月
末日までです。

☆全国共通図書券 23、90、161、238、248、255
338、441、426、481

☆飲み物、アイスクリーム券、17、498、305
603、302、398

(賞品はすべて会員からのご寄付です。)

「幼い難民を考える会」当面の活動方針

第1回理事会(1981. 1. 15)で決まった当面の活動方針は、次のとおりです。(一部省略)

I タイ国難民キャンプ内の活動

- 1.カオイダン・キャンプ内に、他の国際組織の協力も得ながら、さらに数ヶ所、「保育施設」をつくる。
- 2.カオイダン以外の、タイ国内各キャンプにも「保育施設」を開くよう努力する。
- 3.「希望の家」を、カンボジア人保育者養成のための研修センターとし、「会」の現地派遣グループは、アドバイザーとして、その運営維持に努力する。
- 4.現地活動継続のため、現在の規模の派遣グループ(4~5名)の常駐を確保する。

II 国内での現地支援活動

- 1.現地活動の成果とその意義のPR。
(CYRニュースとミニ・ニュースの発行報道機関の利用、現地写真などの展示、他の難民救済組織との交流)
- 2.活動資金の継続的確保。
(賛助会員制による、定期的収入源の確保一般募金の継続、会費納入の励行)
- 3.事務局の整備・強化。
(常勤事務局員の確保)
- 4.会員の参加しやすい行事の企画と実行。
(現地报告会、バザー、勉強会=クメール語、難民問題の歴史と現状、カンボジア情勢など=、日本定住難民との交歓会)

— 会計報告 —

(1981年10月1日~11月30日)

項 目	取 入	支 出	残 高
国 費	前月より繰越金		467,611
	会費(含支援金)	422,791	
	賛助会費	104,684	
	その他	0	
	事務所経費		790,607
計	527,475	790,607	204,479
内 金	前月より繰越金		6,677,963
	寄付金	596,076	
	バザー収益他	1,808,406	
	I 国内活動費		282,430
	II 現地施設運営費		2,652,272
III 現地活動費		433,415	
IV 現地派遣活動費		599,580	
計	2,404,482	3,967,697	5,114,748
現 地	前月より繰越金		531,912.98
	補助金	660,435	
	寄付金	4,500	
	その他	8,813	
	仮受金	681	
	I 施設運営費		90,630.75
	II 活動費		58,862.25
III 派遣活動費		26,816.70	
仮払金		152,785	
計	674,429	329,094.70	877,247.28

<単位・国内一円、現地一バーツ>

* 関西支部の会計(1981.4.1~11.30)は、今月より国内会計に含まれます。

寄 付 者 (敬称略)

<10月> 松永昇司、内山賢二郎、春原芳子、小林悦子、山本ちえ、犬丸他2名、榎本美枝子、鈴木恵実、菅沼ケイ、飯尾美園、春原アイコ、明泉寮々生、平井多恵子、ガールスカウト日本連盟京都府支部第37団、牧田立子、狛江第八小学校児童会宮代会湘南支部、箭内祥周、京都ソントクラブ
<11月> カトリック蒲田教会、山本ちえ、飯尾美園加藤彰、青木秀光、広岡恵、梅田子どもの家、さゆり幼稚園、横浜雙葉小学校、伊藤喜夫
募金箱設置協力者<10月、11月> 横浜YWCA、五反田東急ボワール、成田ビューホテル、東京ドイツ文化会館、京都中国飯店、梅田子どもの家

事務局からのお知らせとお願い

- ☆ 1982年2月から3月にかけて、東京、名古屋、京都、福岡、大分、宮古、横浜にてCYR写真展を企画しています。各地の会員のみなさまの会場準備、受付などのご協力をお願いします。
- ☆ 現在の広尾事務所は来年3月以内に移転の予定です。家賃5万円以内、広尾近辺。お心あたりの方はご連絡を!!
- ☆ 郵便料金の値上りのおり、CYRニュース第7号以降は原則として会費納入済みの方のみに配布。また、銀行振込、郵便振替のご送金は、勝手ながら振込票をもって領収書とかえさせていただきますのでご了承ください。

CYRニュース編集者募集!

週1回午後6時から9時まで来所できる方。
曜日は事務局にご相談ください。

編集担当 秋沢、川畑、関口、平山、森定